



中国での思い出

皇漢堂製薬株式会社

代表取締役会長 藤原 國雄



私が初めて中国へ行ったのは、1978年のことでした。目的は、中国の病院と製薬会社、そして漢方薬局の視察でした。

ある製薬会社で、面白い製品を見つけました。製品名は「青春謳歌」です。成分は何か聞いたところ企業秘密との事です。私はどうしてもこの成分が知りたくなり、上海の本屋へ行ったところ、医学生や医療関係者以外立ち入り禁止のコーナーを見つけました。厚かましく、その中へ入って行き、強精剤の処方書かれた様な本を見つけ、購入しようとしたところ、身分証明書の提示を求められ、中国語も話せないので、その本を購入することはできませんでしたが、他の書店で似たような本を見つけました。

視察の他、観光もありましたので、色々な所へ出かけましたが、出会う中国人は皆、人民服を着ており、誰に会っても人民服です。やっと、日本の終戦直後の女子の事務服のような服装の女性を見つけたので、彼女に聞くと、「私は女優です。」との事ですが、とても信じられません。そこで、その夜、彼女の出演する観劇場へ行きました、舞台衣装に身を纏い綺麗に化粧した姿は本当に美しく目をみはるばかりでした。

また、上海を流れる川、黄浦江のほとりを散歩していると、若い男女が数メートル間隔で並んでいましたが、皆下を向いて、無表情で暗い印象を受けました。

その後、1980～85年にかけて、広州の交易会に毎年参加しました。当時、日本の薬業界では、中国との友好商社は大阪の道修町の数社しかなく、私は先輩の会社の社員の方と一緒に、香港経由で、車で広州に入りました。皆さん、香港で、ウイスキーやブランデー、つまみ等々を一杯買込んで持って行きます。私は酒が弱いので、何も買わずに行きましたが、広州に着いたら大変でした。朝8時頃に起床、朝ご飯はお粥で、朝からビールです。交易会の会場へは、10時頃に行き12時迄商談、それからホテルへ戻り、ビール付の昼食と昼寝、そして午後3時～5時迄が商談、またホテルへ帰り、夕食・・・。



ホテルのウエイトレスは、もちろん人民服を着ており、料理を運ぶだけで、話しかけても笑っているだけです。そこで、先輩からひと言注意がありました。『中国で、女性に手を出したら、一生日本へは帰れないよ』なるほど、皆さんがお酒やつまみを買いまくっていたのが理解できました。なにもすることが無いので、毎晩、酒とトランプや花札で長い夜を過ごしたのですが、10日程経つと、中国の大陸時計にもすっかり馴染んで、何となく幸せな気持ちになって行ったのを覚えています。

2000年に入った頃、「中国は飛躍的に発展し、以前と比べると別世界の様になっている、上海は不夜城のようだ。」という話をよく聞くようになり、半信半疑で、久しぶりに上海に行きました。この時は、仕事ではなくプライベートで行きましたので、上海の街を隈なく歩き回りました。すべての地下鉄にも乗り、各駅で降りて見て回りました。町を歩いている人達の服装も色とりどりで、皆上を向いて明るく、生き生きとしており、鄧小平氏の開放戦略から、僅か10年で、景色が様変わりしていました。

これは、将来ビジネスになると思い、弊社の製品を中国で販売できればと考え、中国人の友人に依頼して許可取得を目指しましたが、何とも言えない壁に阻まれ断念せざるを得ませんでした。現在、モンゴル・台湾・香港・マカオには輸出していますが、中国には、香港・マカオ経由で販売されているようです。

国内では、弊社の便秘薬が中国人観光客のお気に入りの一つになっています。21世紀は、アジアの時代だと言われています。アジアでのビジネス、頑張りたいと考えています。